

2231109 吉田ひかる

今回のイギリスへの短期留学では、英語力の向上を目的に参加しましたが、勉強以外にも様々なことを知ることが出来ました。

まず自分は、タイ以外の海外に行くのは初めてだったことと、コロナ禍の影響で海外に行くことですら難しい状況の中、このような機会に恵まれたことに感謝しています。

カンタベリークライストチャーチ大学に着いた際、キャンパスの圧倒的な広さと設備の充実さに驚きました。総合学科という事で、スポーツジムや研究用のラボまであり、いかにも学生都市の大学という雰囲気がありました。

キリスト教系の大学だと思っていたが、思っていたよりもイスラム教などの方も多く、様々な国から学生たちが集まっており、国際色豊かだと感じました。大学内にイスラム教の礼拝室が設置されていたり、学食内ではハラール認証のマークがついている商品が置いてあったりと、様々な宗教への配慮がありました。東日本国際大学でも様々な国から留学生が勉強しに来るので、宗教を尊重、配慮するようなもの、例えば学食のメニューにどんな肉が使われているのかの記載、ハラール認証マークの設置など、CCCUから真似して工夫してみるのもありなのではないかと考えました。

授業については、事前説明で聞いた「自分のレベルにあったクラスに配置される」と思っていたのですが、実際にクラスは変わることなく、合同のメンバーで勉強していきました。ほかの海外から来た留学生と一緒に勉強すると思っていたので、これから一緒に勉強する他校のメンバーたちが全員日本人だったのに驚きました。ですが、異国の地で日本人に会える感覚が嬉しく、更には関西方面から来た人たちだったので、東北、関東しか馴染みのない自分にとっては、ある意味異文化理解のコミュニケーションでした。

授業内容はイギリス国内における問題や、歴史文化などを中心に話を展開していきました。なかでも印象に残った授業内容は、イギリスを舞台にした映画「007」などを取り上げ、そこから単語や語彙の練習をしました。授業の途中でMr.ビーンで有名なローワン・アトキンソン主演によるコメディスパイ映画を観たことも印象に残っています。最後まで観られなかったのが残念です。

授業の難しさはというと、自分にとっては少々難しいといったレベルでした。聞いたことある単語だが意味を忘れるといった事が非常に多く、自分の課題点を見つけることが出来ました。

単語や語彙練習以外にも、カードを使った語彙ゲームなども行いました。これは自分の英語で物事を伝える能力を向上させる一方で、グループ内の人たちとも交流ができ、とても楽しく学ぶことが出来ました。

学食では、2ポンドほどで売っていたサンドウィッチを食べましたが、恐ろしく不味かったです。サンドウィッチを不味くできるなんてにわかには信じがたい現象でしたが、本当に美味しくなかったです。イギリスの食べ物は不味いという話は有名ですが、全てが不味いと

いうよりかは、価格相応のクオリティがあるように感じました。

そのほかに、スーパーで買った菓子パンは基本的にシナモンの味しかしないという知見も得られました。これにはもしかしたら、歴史や文化的な背景があるのではないかと考えました。イギリスなどのヨーロッパ諸国はスパイスが貴重だった時代があったため、こうした菓子パンにもスパイスを練り込むほど、イギリスでは馴染み深い味なのではないかと考察しました。日本で生まれ育った自分の口には合いませんでした。

カンタベリー、ロンドンを含め、様々な国の人を多く見かけるので、普段日本では感じられないような雰囲気を味わうことが出来ました。イギリスに来る前は、コロナの影響でもしかしたらアジアンヘイトがあるのではないかと思い、少し危惧していましたが、実際はそんなこともなく、普通に過ごせました。ネイティブスピーカーの話し方をされると一瞬わからず戸惑ってしまうことも多々ありましたが、みんな優しく対応されたので、取り敢えず解決し、何とかなることが多かったです。イギリスへの短期留学は本当に楽しかったです。